

県中教研 保健部会だより

第 33 号

発行日 平成30年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 長谷川智恵美
題 字 金山 泰仁 先生

養護教諭に求められるマネジメント力 ～ミドル・アップダウン・マネジメント～

指導主事 北島由紀子

今年度の中学校教育課程研究大会の発表の中に、「歯と口の健康」をテーマにした生徒参加型の学校保健委員会の実践がありました。私が、この実践に感銘を受けた点が三つあります。

- 1 学校保健委員会の計画を前年度の2月から立案していたこと（実施は今年度6月）
- 2 生徒の希望を基にグルーピングし、分科会形式で学校保健委員会が行われていたこと
- 3 地域の4人の歯科医・歯科衛生士の方が学校保健委員会に携わっていたこと

いずれも、養護教諭が先を見越し、主体的に取り組んでいます。1、2は学校・学年の運営に、3は地域や機関に働きかけたことにより成立したといえます。このように、学校のみドルリーダーに当たる人が、課題達成のために管理職や担任等に働きかける方法を「ミドル・アップダウン・マネジメント」というそうです。組織の意思疎通・課題達成を促進する上で有効だとされています。働きかけの際は、的確な実態把握と具体的な方策の提案が鍵を握ります。この実践では、「DMF歯数」「未処置歯保有者」「生徒アンケート」等を基に、生徒の歯と口の状態を表す数値が県の平均よりも低いこと、生徒の予防歯科への意識が低いこと等の課題を明らかにし、学校保健委員会の内容や方法が提案されていました。

健康課題を明らかにする。課題達成のために、いつ、誰に、何を、どのように働きかけるかということを考え、計画を立て実行する。さらに、成果を踏まえて改善を重ねる。このような「養護教諭のマネジメント力」の向上が、健康教育を一層推進することにつながります。今後も、中教研保健部会を母体として、研修を重ねられることを心から祈念申し上げます。

（西部教育事務所）

チーム保健部会

部長 長谷川智恵美

今年度の実践では、生徒同士が関わり合う話合いの場の工夫や自分で解決方法を選択する場の工夫等により、研究主題の解明に迫ることができました。中でも、部活動での危機管理能力を高める自主的な活動は、各校で参考にしたい実践だったと思います。

健康教育の今日的課題はたくさんありますが、今の中学校では時間の確保が難しい現状です。限られた時間の中で効果的な健康教育を実施していくためには、生徒の実態を把握・分析し、指導内容を精選して、年間のカリキュラムにしっかりと位置付ける必要があります。そして、適切な人材や教材等を選定するとともに、全体をマネジメントしていく力が、今後ますます必要になっていくと思います。

健康の基盤は、心と体です。人間の体の仕組みや命の営みには、自然の英知や工夫があり、それを学ぶだけでも新しい発見や感動があります。その感動を教材化した指導や人間の体や命のすばらしさを根底にした健康教育が、生徒の自分の心や体を大切にする力につながっていくのではないかと期待しています。

先日、過去に壮絶な虐待を体験し、現在は虐待防止活動に取り組んでおられる島田妙子さんの講演を聴きました。虐待を発見し、そこから救ってくれたのは、中学校の先生だったそうです。保健室には様々な問題を抱え、支援を必要とする生徒が来室します。虐待だけでなく、生徒一人一人の問題を早期に解決していけるような校内体制を整えて、専門家や養護教諭同士のネットワークを生かした支援をしていきたいと考えています。

（富・北部中）

第61回 研究大会報告

第61回富山県中学校教育課程研究大会保健部会
が、10月12日(木)富山市速星公民館において、全
地区の部員83名が参加し開催された。

「生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに
取り組み、健康で安全な生活を営む能力や実践的
な態度を育てる健康教育はどのようにすればよい
か」の研究主題のもと、下新川・黒部・魚津地区(発
表者 魚津西部中・谷口真由美養護教諭、桜井中・
島美枝養護教諭)から提案発表が行われた。「『歯
と口の健康』をテーマとした学校保健委員会の取
組」と「熱中症予防の取組」の2校の実践を通し
て主題の解明に迫った。

学校保健委員会の取組では、歯科検診や歯に関
するアンケートから生徒の実態を把握し、ねらい
を4つに絞り、分科会形式で行った学校保健委員
会についての実践発表だった。講師や対象学年教
諭、そして、生徒会保健委員と養護教諭が打合わ
せを十分に重ね、「チームとしての学校」を意識し、
組織力を生かした取組として参考になった。熱中
症予防の取組では、学校全体で熱中症対策につ
いて共通理解を図り、学校保健委員会の開催、環
境測定器や熱中症処理セットの整備、部活動にお
ける健康管理についての実践発表だった。2校とも
に、前年度から計画を立案し学校保健委員会を
開催しているところが参考になった。また、部活
動毎に予想される事故やその原因、そして、予防
策等について部員たちで意見を出し合い、模造紙
にまとめて掲示する「危機管理ミーティング」に
ついては、具体的な内容を確認する質問が多く出
されたことから、関心の高さがうかがわれた。

部会協議では、提案発表を受けて「生徒が心身
の健康について理解を深めるための工夫」「生徒
が主体的に健康な生活を実践するための指導の工
夫」について3人グループで話し合い、その後全
体協議を行った。各自が持参したワークシートを
もとに意見交換したり、各地区での取組を紹介し

たりと活発な協議が行われた。

北島由紀子指導主事(西部教育事務所)からは、
提案発表の実践内容や各地区の取組の成果から、
健康教育を効果的に行うポイントとして、「生徒
中心の問題解決的な学習や取組」「生徒全体・学
校全体の取組」「年度をまたぐ実践計画」「複数回、
複数年、+(プラス)指導」の4つが重要である
ことを教えていただいた。

また、今後のよりよい実践のために「学校毎の
組織に依拠して、校内外で、いつ、どの場で、誰に、
どのようにアプローチするかを考えて連携してい
く」「地域や保護者、校区の関係機関と連携して
拡大・地域保健委員会を開催する」「テーマに基
づいて様々な活動を縦横斜めにつないで効果的に
実践できるようカリキュラム・マネジメントを行
う」ことを指導していただいた。「カリキュラム・
マネジメントシート」を使った具体例では、1学
期に実態把握し夏休みに立案、2学期に実践、冬
休みに評価、年度末に見直しをするというR-P
DCAサイクルで年度内に無理なく合理的に実践
できる方法を示していただいた。また、新学習指
導要領の保健体育科保健分野の改訂に当たり、保
健体育科担当者と積極的なチームティーチング
を行って校内連携につなげることも助言してい
た。

組織的な健康教育を効果的に行うために必要な
ことを、自校の体制に照らし合わせて聞き、具
体的に深く考えることができた。今大会で
得た成果を今後の研究や指
導実践に生か
していきたい。



嘉藤由美子(富・速星中)
前田 千帆(高・福岡中)

ストレスを抱える生徒の理解と支援方法

—ストレスマネジメントと教育相談の視点から—

講師 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授 富永 良喜 先生

1 「心の教育」の実践について

心の教育は、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の3つに分類される。心の健康教育がいじめや暴力の抑止力になっていることは明らかにしている。

兵庫県心の教育総合センターが2011年に小中高校を対象に「今後行いたい『心の教育』の内容」についてのアンケートを行った結果から、効果的と考える活動は「構成的エンカウンター」、今後行いたいと考える活動は「カウンセラーと共同で行う実習等」がそれぞれ1番に上がっている。ストレスマネジメント教育は、教育現場が求めている課題である。

また、文部科学省が2014年に不登校経験者に行った調査でも、不登校経験者が当時受けたかった支援内容は、「心の悩みについての相談」「自分の気持ちを表現したり、人とうまくつき合ったりする方法の指導」であった。しかし、実際問題として「アサーショントレーニング」、「ストレスマネジメント」、「ソーシャルスキルトレーニング」を行える時間が、教育課程上あまりにも少ない。

2 教育相談の5つのポイント

最近、発達に絡んだ幼少期の養育が不適切であったことに起因する相談ケースが多い。親子合同面接の際には、子供の暴力で家族が困っていても親は暴力について話せない。また、子供は自分の暴力を他の人には話したくないといったケースも見られる。そのような場合は、自ら抱える「ストレス」について生徒自身が相談することをきっかけにして、根本的な問題に近付いていくとよい。

教育相談のポイントは、

- (1) 「こうできたらいいな」を宣言してもらう。
- (2) 感情を認め、心のつぶやきを聴き、望ましい行動を提案する。
- (3) 「眠れない時」「疲れた時」「イライラする時」のリラックス方法を身に付ける。
- (4) ネガティブなつぶやきと他のつぶやきがあることに気付く。
- (5) アサーティブな言い方を身に付ける。

3 ストレスマネジメントについて

ストレスマネジメントは、授業でも教育相談でも活用できるのが特徴である。ストレスマネジメント教育とは、「ストレスの本質を知り、それに打ち勝つ手段を修得することを目的とした健康教育」である。

ストレスマネジメント教育の内容は、「第1段階＝ストレスの概念を知る」「第2段階＝自分のストレス反応に気付く」「第3段階＝ストレス対処法を習得する」「第4段階＝ストレス対処法を活用する」である。

4 模擬授業から

今までの教育課程でのストレスマネジメント教育は、道徳においては内面のことしか取り扱わなかった。学習指導要領改訂後は、道徳的行為にかかわる体験的な学習を取り入れてもよいこととなった。しかし、構成的エンカウンター等で1時間扱いにはできないということである。そこで、「自分のストレスを知り、よい対処を学ぼう」「眠りのリラクゼーションについて」「『心のつぶやき』をキャッチしよう」等のトレーニングを1時間の授業の中に取り入れてみてはどうかといった提案をされて、講演会が終わった。

西村要佳子（砺・庄西中）



がん教育の取組

日本が長寿社会を迎えるにあたり、近年文部科学省においても、「学校におけるがん教育の在り方」が検討されるようになり、全国の学校でもがん教育を推進するよう働きかけています。本校でも、健康を意識した生活ができる生徒を育てるために、がん教育に取り組むことにしました。

○チームティーチングによる保健学習

保健体育科教諭、養護教諭、学校栄養職員の3人が、チームティーチングによる保健学習を全学年で実施しました。まず、保健体育科教諭が男女別の死因について説明し、男女共にがんによる死因が上位であることを生徒に理解させました。次に、養護教諭が不規則な生活とがん細胞発生との因果関係について説明した後、学校栄養職員から大腸がんを予防する食事指導を行いました。その後、生徒たちはグループになって、がんの発生要因について話し合ったり、自分の生活習慣を振り返ったりしました。

○がん教育出前授業の実施

高岡市民病院の医師を出前授業の講師として迎え、専門的な立場からがんについて講演してもらいました。患者の命を救うのは、早期治療と早期発見が重要であるということ、ステージによって治療方針が違うことを分かりやすく説明してもらいました。授業の最後に、生徒は「家族にも検診を勧めたい」「免疫力を高める生活を送っていききたい」等の感想を述べていました。

今回の実践によって、生徒たちは、自分の将来の健康のためにも規則的な生活習慣を心がけたいという意欲を高めていました。がん教育は、学習内容が多岐にわたっているの
で、他教科とどのように連携しながら進めていくか研究を継続していききたいと思います。



六郷 恵子 (高・国吉中)

滑川・中新川地区保健部会の取組

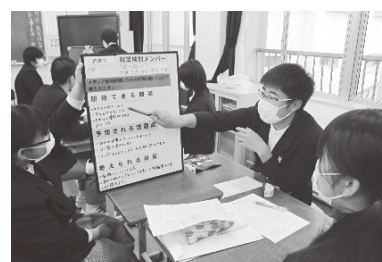
滑川・中新川地区保健部会では、メディアコントロールを中心とした生活習慣づくりの指導方法について、各部員が勤務校の実態に合わせて実践を行い、検討することで研究を進めてきました。

今年度は、県総合教育センターの亀島正吉先生から、情報モラルについてご講義をいただきました。講義では、これからの生徒たちは、インターネットの影の部分を理解し、適切な判断力と心構えをもって、インターネットを上手に賢く利用していく必要があることを分かりやすく教えていただきました。

特にゲームやSNSには、依存に陥りやすい部分や犯罪に巻き込まれる危険性があることを、ゲーム依存傾向にあった生徒が依存から回復していくまでの経過をたどった事例を基に話し合いました。生徒が回復していくまでの過程とゲームの仕掛けを合わせて考えたことで、その生徒がたどった心の変化を顧みることができました。「自己肯定感が低い」「他者評価を気にする」傾向が強くある生徒ほど、依存傾向に陥りやすいことが分かりました。

ネット依存傾向の高い生徒に対して、インターネットの影の部分を理解して、その生徒の困っていることや悩みに共感しながら関わっていくことが大切であると学びました。そうすることで、生徒の実態に近い指導につなげていけると思いました。

今後も養護教諭としての専門性を高めながら、生徒が主体的に健康な生活を実践できるような指導について、部員一丸となって研究を進めていきたいと思えます。



山岸久美子 (滑・早月中)